授 業 概 要

分　野	専門分野Ⅰ	科目名	看護学概論Ⅱ	担当講師	田中　佳代子 和田　美穂
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

自己の価値観を知り、他者の価値観などの多様性を理解し、看護専門職としての倫理的感受性の基礎を養う。また、倫理原則および看護実践上の倫理的概念を理解し、看護実践において生じやすい倫理的問題とその問題へのアプローチ方法について理解をする。また、キャリア形成に必要な看護研究の概要を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. キャリアとは何か、キャリア発達の要素について述べることができる	1) キャリア発達とは	(1) キャリアについて (2) 自律性とは、専門職とは (3) キャリア・デザイン (4) キャリア発達の要素 ー看護職の職務継続意思を支える要素意欲・自信・自律性・問題意識・探究心	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
4	2. 患者の権利、人権擁護など看護職に求められる倫理に関する歴史的事柄及び法律等が説明できる	1) 倫理 2) 生命倫理 3) 人権と権利、義務	(1) 倫理の基本的な考え方 (2) 生命倫理 ・原則、規則 ・インフォームド・コンセント ・守秘義務、個人情報保護 ・生殖、死、先端医療と制度 (3) 倫理的･文化的多様性と価値の対立 (4) 日本国憲法第 25 条 (5) 世界人権宣言(1948 年) (6) 患者の権利に関するリスボン宣言 (7) 権利擁護ﾓﾃﾞﾙ・価値の決定ﾓﾃﾞﾙ・人として尊重するﾓﾃﾞﾙ	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
4	3. 看護者の倫理原則と看護の役割、倫理的責任、法的責任について説明できる	1) 看護の定義 2) 看護の業務 3) 看護倫理 4) 研究倫理	(1) 看護倫理の歴史 (2) 自律・善行と無害・正義・誠実と忠誠の原則 (3) 倫理的概念 アドボカシー・協力・ケアリング (4) ICN 倫理綱領、日本看護協会看護職の倫理綱領 (5) 保健師助産師看護師法と倫理 行為：品位・守秘・名称の使用 (6) 看護業務	講義
2	4. 看護実践における倫理的問題についてｱﾌﾟﾛｰﾁ法を用いて分析できる	1) 倫理的ｼﾞﾚﾝﾏ 2) 倫理問題へのｱﾌﾟﾛｰﾁ	(1) 看護実践における倫理的問題の特徴 (2) 倫理的ｼﾞﾚﾝﾏ (3) 倫理的問題へのｱﾌﾟﾛｰﾁ ｱﾌﾟﾛｰﾁ法：Jonsen らの症例検討ｼｰﾄ、ﾄﾝﾌﾟｿﾝ&ﾄﾝﾌﾟｿﾝの意思決定のための 10 ｽﾃｯﾌﾟﾓﾃﾞﾙ、ｻﾗ･ﾌﾗｲの倫理実践にお	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ

			ける倫理的分析と意思決定のためのﾓﾃﾞﾙ､ﾚｽﾄによる道徳的行動の 4 要素モデルから導き出されたｹｰｽ分析質問表 (4) 合意形成	
2	5. キャリア発達と研究の関連性がわかる	1) キャリア発達と研究	(1) キャリア発達に必要なこと - 自分を高める - 看護専門職にとって研究の意義-	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
4	6. 看護研究を行う意義、目的が理解できる 7. 文献検索とクリティークができる	1)看護研究の意味と意義 2)看護研究の種類 3)看護研究のプロセス 4)情報とは 5)文献とは 6)文献クリティーク	(1)看護研究とは (2)多様な研究方法 (3)研究過程の概観 (4)情報の科学的根拠 (5)文献の種類 (6)文献の読み方・クリティーク (7)著作権	講義 演習
10	8. 実習での経験をリフレクションできる	1)リフレクションの定義 2)リフレクションの実践	(1)「行為についてのリフレクション」と「行為の中のリフレクション」 (2)ギブス（Gibbs）のリフレクション学習サイクルモデル ①経験の説明 ②経験における感情の表出 ③経験の評価 ④経験の分析 ⑤経験からの学び ⑥アクション・プラン	講義 演習
2	試験			
テキスト	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学①　看護学概論　医学書院 手島恵監修　看護者の基本的責務－定義・概念/基本法/倫理　日本看護協会出版会 系統看護学講座　統合分野　看護管理　看護の統合と実践①　医学書院 田畑邦治他編集　哲学－看護と人間に向かう哲学　ヌーヴェル・ヒロカワ 系統看護学講座　別巻　情報科学　医学書院 田村由美　池西悦子著　看護のためのリフレクションスキルトレーニング　看護の科学社 系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　医学書院			
参考文献	サラ T.フライ著　看護実践の倫理　倫理的意思決定のためのガイド　第 3 版　日本看護協会出版会 長田久雄著　看護学生のための心理学　医学書院 田村由美　池西悦子著　看護の教育・実践にいかすリフレクション　南江堂 その他、授業中に紹介			
評価方法	筆記試験、課題レポート、授業の取り組み状況 リフレクションレポート			

授　業　概　要

分　野	専門分野	科目名	臨床看護総論Ⅱ	担当講師	田中佳代子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

本科目は、臨床判断能力を育成することを目的とした科目である。1 年次の臨床看護総論Ⅰで学んだ臨床判断能力の基盤となる学習内容を活用し、更にもう一段階ステップアップした臨床判断のための思考を育成することをねらう。臨床の場で、看護師がどのようなことに「気づき」、「解釈し」、「看護を実施し」、「それを改善し」、さらに対象者を深く理解した看護を行っていくのか、という臨床で行われる看護に必要な判断の全てのプロセスを踏む中で、“看護師のように考える”方法を学ぶ内容とする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1.看護における臨床判断の重要性を理解する	1)臨床判断が必要な理由	(1)「教室」と「臨床」の乖離 (2)臨床判断能力が求められる看護現場 (3)看護職の役割の拡大 (4)臨床判断とは ①タナーの臨床判断モデル ②臨床判断のプロセス	講義
4	2.看護において「気づく」ことの重要性が分かる	2)「気づき」のトレーニング	(5)場面を通して「変化」や「何かおかしい」ことに気づく	シミュレーション グループ討議
6	3.事例の対象者に必要な看護援助を考えることができる	3)事例の状況に「気づき、解釈する」	(6)発熱と呼吸症状がある事例の状況に気づき、状態を解釈する ①呼吸困難に関する自己学習 ②対象者の状態を把握するための意図的な情報収集 ・観察 ・フィジカルアセスメント ・コミュニケーション ③対象者の状態を解釈する ④必要な看護援助を考える	事例演習 グループ討議 シミュレーション
6	4.事例の対象者に必要な看護援助を実施できる	4)事例の状況に「気づき、反応する」 5)行った看護援助を「省察」する COPD	(7)発熱と呼吸症状がある患者への看護援助 ①苦痛な状態を緩和させるための看護援助 ②対象者の反応から看護行為の評価を行う ・行為の中での省察 ・行為の後の省察	技術演習 グループ討議 シミュレーション
10	5.在宅療養中の対象者に必要な看護援助を実施できる	6)事例の状況に対し、臨床判断の一連のプロセスを辿る 誤嚥性肺炎	(8)在宅療養中の対象者の訪問看護時に必要な看護援助 ①対象者の状態の変化に気づく ②状況を解釈する ③必要な看護介入を行う ④行為の省察	技術演習 グループ討議 シミュレーション
2	6.試験			

テキスト	系統看護学講座　専門　基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ 根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第 2 版　医学書院 看護過程に沿った対象看護　学研
参考文献	系統看護学講座　専門基礎　解剖生理学、病態生理学 系統看護学講座　専門　成人看護学②呼吸器
評価方法	筆記試験　パフォーマンス評価

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	地域・在宅看護援助論Ⅰ「健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護」	担当講師	和田　美穂
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　地域で生活する人々の健康の保持増進に向けた看護に必要な理論を学習し、活用方法を学ぶ。また、看護の対象となる家族について理解し、看護方法を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
8	1. 健康保持増進・疾病予防に向けた理論の活用方法が理解できる	1) 健康の保持増進・疾病の予防に関わる看護	(1) ハイリスクアプローチ 生活習慣病予防　介護予防など (2) 健康行動理論の活用 (3)セルフケア理論の活用	講義
10		2) 地域で療養生活を送る人のアセスメント 3)事例にてワーク	(1) ヘルスアセスメント (2) 病態症状のアセスメント (3) 生活のアセスメント 1)2)の講義を活用し、事例で健康の保持増進・疾病予防に向けた看護展開	講義 GW
10		4)家族のアセスメントと看護展開 5)事例にてワーク	(1) 家族看護過程とは (2) 家族看護の実践 (3) 家族アセスメントモデル 4)の講義を活用し事例展開する	講義 演習
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野「地域・在宅看護論Ⅰ」医学書院 系統看護学講座　専門分野「地域・在宅看護論Ⅱ」医学書院 系統看護学講座　別巻　　家族看護学　　医学書院 国民の福祉と介護の動向　一般財団法人　厚生労働統計協会
参考文献	系統看護学講座　基礎分野　人間関係論　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度③　社会保障・社会福祉　医学書院 系統看護学講座　専門基礎　健康支援と社会保障制度④　看護関係法令　医学書院
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	地域・在宅看護援助論Ⅱ「病期に応じた対象者の看護」	担当講師	小谷裕都子・藤原優子 尾﨑八寿子・西垣美奈子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい
本科目では、地域で生活する対象者の看護介入時期に応じた看護と継続看護について学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
10	1. 病期に応じた看護が理解できる	1) 回復期（ﾘﾗﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ期）にある療養者	(1) 治療の場からの移行期 (2) 在宅療養の安定期 (3) 在宅リハビリテーション期	講義
		2) 急性期にある療養者	(1)急性増悪期 ①緊急性と重症度のアセスメント ②状態に合わせた対応・調整 ③急性症状への対応 ④感染症（肺炎等）への対応	講義
		3) 終末期にある療養者	(1)終末期 ①症状マネジメント ②終末期緩和ケアの実際 ③看取りの援助 (4)グリーフケア	講義
4	2)継続看護について理解できる	1) 継続看護	(1)継続看護の目的と意義	講義
1	試験		筆記試験	

テキスト	系統看護学講座　専門分野　　地域・在宅看護論Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　　地域・在宅看護論Ⅱ　医学書院 国民の福祉と介護の動向　一般財団法人　厚生労働統計協会
参考文献	系統看護学講座　専門分野　基礎看護学　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾病論　医学書院 系統看護学講座　別巻　救急看護　リハビリテーション看護　医学書院 河野あゆみ編集　強みと弱みからみた在宅看護課程+総合的機能関連図　医学書院 渡辺裕子監修　家族看護を基盤とした在宅看護論Ⅰ：概論編・Ⅱ：実践編　日本看護協会
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	地域・在宅看護援助論Ⅲ 「暮らしの場で行われる治療と看護」	担当講師	米田　真弓 坂本真由美
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

本科目では、地域で生活する人々とその家族の看護として、暮らしの場で行われる治療と看護について学ぶ。また、地域で生活する人々とその家族の生活を支えるための看護として、あらゆる人々の事例で看護について考え援助方法について検討する。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
14	1. 暮らしの場で行われる治療と看護について理解できる	1)暮らしの場で行われる治療と看護	(1) 褥創予防、褥創処置 (2) 栄養状態改善のケア (3) 輸液 (4) 薬物療法 (5) 在宅中心静脈栄養法 (6) 膀胱留置カテーテル (7) 在宅人工呼吸療法 (8) 非侵襲的陽圧換気療法 (9) 在宅酸素療法 (10) ストーマ管理 (11) 疼痛緩和	講義
14	2. 事例を通して地域で生活する人々とその家族の看護について考え実践できる	2)事例展開	（1）小児期の療養者 （2）難病がある療養者 （3）精神疾患のある療養者 （4）認知症の療養者	講義･演習
2	試験		筆記試験	

テキスト	系統看護学講座　専門分野　地域・在宅看護論Ⅰ・Ⅱ　医学書院 国民の福祉と介護の動向　一般財団法人　厚生労働統計協会
参考文献	系統看護学講座　専門基礎　栄養学　人体の構造と機能③　医学書院 看護がみえる　フィジカルアセスメント　メディックメディア 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学②　基礎看護技術Ⅰ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護学③　基礎看護技術Ⅱ　医学書院 系統看護学講座　専門分野　家族看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学　小児臨床看護総論 系統看護学講座　専門分野　小児看護学　小児臨床看各論 系統看護学講座　専門分野　精神看護学　精神看護の基礎 系統看護学講座　専門分野　精神看護学　精神看護の展開 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護　病態・疾患論　医学書院 任和子編集　根拠と事故防止からみた基礎・臨床看護技術　医学書院 河野あゆみ編集　強みと弱みからみた在宅看護過程+総合的機能関連図　医学書院
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	成人看護援助論Ⅰ 「慢性的な健康障害をもつ成人の看護」	担当講師	杉垣ひとみ 西岡智恵美
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

本科目では、成人期の生活習慣によりに密かに進行する慢性疾患に焦点をあて、「病気」とわかった時から、生涯にわたり疾病をコントロールするためのセルフケア行動形成・維持と社会的支援獲得の学習支援を中心に学ぶ。また、現代における慢性疾患の動向を捉え、糖尿病の事例を通して社会的役割が大きい成人が病と共に生きることの困難さを理解した支援を具体的に学ぶこととする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
4	1. 慢性病を持つ対象の特徴が理解できる	1）慢性的な経過をたどる対象の特徴 2）病と共に生きる患者と家族	(1) 慢性病の経過 (2) 慢性病を持つ対象の特徴 (1) 慢性病を持つ人の心理 (2) 病みの軌跡 (3) 首尾一貫感覚、健康信念モデル、コントロールの所在	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
8	2. 慢性病と共に生活することを支える看護について理解できる	1）慢性病をもつ人への看護	(1) 慢性病と共に生きる人を支える看護の目的 (2) 慢性病との共存を支える看護の方法 (3) エンパワーメント エンパワメント・エデュケイション (4)セルフケアとセルフマネジメント (5) セルフマネジメント教育 ① セルフマネジメントの概念 ② コンプライアンスを高めるための知識と技術 ③ 自己効力を高める技術	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
4	4. 社会的支援獲得への援助が理解できる	1）社会的支援獲得への援助	(1) 家族・患者会への支援 (2) 難病医療費助成制度	講義
12	5. セルフケア行動形成・維持に向けた支援の実際が理解できる	1）慢性的な健康障害を持つ成人の看護展開	事例演習 糖尿病を指摘されていた成人男性が血糖コントロール不良で入院。生活の見直しが必要。	演習
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　内分泌・代謝　成人看護学⑥　医学書院 高木永子監修　看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のﾎﾟｲﾝﾄ　第 5 版　学研ﾒﾃﾞｨｶﾙ秀潤社 系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院
参考文献	安酸史子著　第 2 版　糖尿病患者のｾﾙﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ教育ーｴﾝﾊﾟﾜﾒﾝﾄ自己効力 メディカ出版 黒江ゆり子他訳　慢性疾患の病みの軌跡　コービンとストラウスによる看護モデル　医学書院 K.ローリッグ著・近藤訳　病気とともに生きるー慢性疾患のｾﾙﾌﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ　日本看護協会出版会 松本千明著　医療・保健スタッフのための健康行動理論の基礎　医歯薬出版株式会社
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　授業の取り組み状況

授　業　概　要

分　野	専門分野	科目名	成人看護援助論Ⅱ「健康の危機状況にある成人の看護」	担当講師	小椋　貴文 赤石　奈々
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
急激に健康の破綻をきたしたとき、成人期にある人はどのような身体・心理反応を示すか。本科目では生命の危機状態にあるときの生体の反応・心理的反応を捉え、緊急・治療時の看護を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
4	1. クリティカルケアを必要とする人の状態と看護の概要が理解できる	1) クリティカルケアを必要とする患者と家族の特徴	(1) 健康の急激な破たん ①事故・外傷・中毒 ②慢性疾患・がんの急性転化 ③急性疾患	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		2) クリティカルケアを必要とする患者のアセスメントと看護	(2)患者の特徴と問題点 事例；外傷（骨盤骨折） ① アセスメントの方法 ② 系統別アセスメントの実際 ③ 治療に伴う看護 ④ 緊急手術への準備 ⑤ 合併症予防 ⑥ 患者・家族の不安の緩和	
12	2. 救命救急時の看護が理解できる	1) 救急患者の観察とアセスメント	(1) 全身の観察とアセスメント (2) 緊急検査 (3) 各機能の観察とアセスメント ①呼吸器系　②循環器系	講義 演習
		2) 呼吸管理・体液循環管理	(1) 呼吸管理とは－①と②の組合せ ①気道の確保 ②酸素療法 ③人工呼吸器による呼吸管理 (2) 循環系・腎機能の管理の意義 ①中心静脈圧 ②体液バランスと循環系のモニタリング ③輸液の管理	
		3) 主要病態に対する救急処置と看護	(1) 心肺停止状態への対応 ①一次救命処置 ②二次救命処置 (2) ショック・循環障害への対応 (3) 体温異常への対応：熱中症 (4) 外傷への対応 (5) 熱傷への対応 (6) 中毒への対応 (7) 重症感染症への対応	講義 演習
		4) 心理的支援	(1) 心理的危機状態の特徴 (2) 危機状態に応じた援助 (3) 家族のニードと援助	

6	3. 重症集中治療管理の実際について理解できる	1) 集中治療室管理	(1) 集中治療室(ICU)の特徴と安全管理－ICU・HCU・CCU・SCU (2) 集中治療室での看護の役割－優先される治療と患者のQOL	講義 演習
6	4. クリティカルケア実践における倫理について理解できる	1) クリティカルケア看護と倫理	(1)生命の尊厳と権利擁護 ③患者の身体拘束 ④インフォームドコンセント ⑤意思決定を支える ⑥真実を伝えることの意義 (5) リビングウィルと DNAR・尊厳死－臓器移植と脳死	講義
	5. クリティカルケアおけるチームの連携について理解できる	1) クリティカルケアとチーム医療	(1) クリティカルケアとチーム医療の特殊性 (2) クリティカルケアにおける他職種との連携	
	6. クリティカルケアにおける看護の役割が理解できる	1) クリティカルケアにおける看護の専門性	(1) クリティカルケアに求められる看護師の能力 (2) 集中ケア認定看護師と急性・重症患者看護専門看護師	
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院 系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院
参考文献	系統看護学講座　別巻　クリティカルケア　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　疾病のなりたちと回復の促進①病理学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 任　和子編集　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術　第２版　医学書院
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　学習の取り組み状況

授　業　概　要

分　野	専門分野	科目名	成人看護援助論Ⅲ 「多様な治療における看護」	担当講師	西村公男　丸山美和子 谷垣奈津子　小椋貴文 才木寿治
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中で最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。成人期の健康障害の特徴の一つは内科的・外科的治療が有効な場合が多く、回復後は社会復帰を目指している点である。したがって最新の治療に関する知識が必要となり、その選択は患者本人に委ねられる。そういった自己選択・自己決定を助け、本来の生活にできるだけ早期に復帰できるよう援助することが必要である。

本科目では、患者が主体的に治療参加できるための支援、がん治療における内科的治療、人工臓器装着を必要とする人の看護、治療時の安全管理（医療機器を安全に取り扱えること含む）について学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 主体的な治療参加への支援が理解できる	1) 治療法の多様化とインフォームド・コンセント	(1) 治療法の多様化 (2)インフォームド・コンセント (3)インフォームド・コンセントと看護師の役割	講義 演習
10	2. 多様な治療法と看護が理解できる	2) 治療方法と看護	(1)化学療法と看護 (2)放射線療法と看護 (3)人工臓器装着を必要とする患者の看護 ・ペースメーカー挿入 ・透析療法 ・胸腔ドレーン挿入 (4)治療と医療安全に向けた看護師の役割	講義 演習
2	3. 医療機器の特徴と安全管理に向けた機器の取り扱いが理解できる	3)医療機器の原理と実際	(1) 医療機器とは (2) 医療機器と安全管理 (3) 各種医療機器の原理と使用目的 (4) 各種医療機器の取り扱い	講義 演習
1	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護学総論　基礎看護学④　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅱ　基礎看護学③　医学書院 系統看護学講座　別巻　がん看護学　医学書院 任　和子編　根拠と事故防止からみた　看護・臨床看護技術第２版　医学書院
参考文献	系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　成人看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学②　呼吸器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学③　循環器　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学⑧　腎・泌尿器　医学書院
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	老年看護援助論Ⅰ 「高齢者に特有の症状・徴候に対する看護」	担当講師	和田美穂 大海貴子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　高齢者は加齢的変化に伴い臓器能や予備力の低下により重症化しやすい。高齢者に特有の症状・徴候に対する看護を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
14	1.高齢者の生活機能を支える看護が理解できる	1)　廃用症候群とは 2)　食事・食生活 3)　排泄 4)　清潔 5)　生活リズム 6)　コミュニケーション 7)　セクシュアリティ	(1) 廃用症候群と高齢者 【高齢者擬似体験】 生理変化と加齢変化 廃用症候群の早期発見・予防 (2) 食事・食生活 特徴とアセスメント、支援 (3) 排泄 排泄ケアの基本、障害のアセスメントとケア (4) 清潔の意義 高齢者に生じやすい健康課題、アセスメント、援助 (5) 生活リズム 特徴とアセスメント、リズムを整える看護 (6) コミュニケーション 原則とコミュニケーション能力のアセスメント、状態・状況に応じたコミュニケーション法 (7) セクシュアリティ 性に関する問題とアセスメント	講義 演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
14	2. 高齢者に特有の症状を支える看護が理解できる	1)　発熱 2)　痛み 3) 掻痒 4) 脱水 5) 嘔吐 6) 浮腫 7)　倦怠感	(1)　発熱のなりたちと特徴、アセスメントと看護 (2)　痛みのなりたちと特徴、アセスメントと看護 (3)　掻痒のなりたちと特徴と看護 (4)　脱水のなりたちと特徴、アセスメントと看護 (5)　嘔吐のなりたちと特徴、アセスメントと看護 (6)　浮腫のなりたちと特徴、アセスメントと看護	講義 演習 グループワーク

2	試験		(7)　倦怠感のなりたちと特徴、アセスメントと看護 (8)　褥瘡・スキン - テアの成り立ちと特徴、アセスメントと看護 試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護病態・疾患論　医学書院 系統看護技術Ⅰ　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院			
参考文献	山田律子 他編 生活機能から見た老年看護過程＋病態･生活機能関連図 第 4 版　医学書院 亀井智子 他編 根拠と事故防止からみた老年看護技術　第 2 版　医学書院			
評価方法	筆記試験　　授業態度及び課題への取り組み状況			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	老年看護援助論Ⅱ 「高齢者の生活を支える看護」	担当講師	大海貴子・中村薫 養父市役所保健師
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　加齢に伴う身体的・精神的・社会的変化が生活に及ぼす影響について演習を通して理解する。演習及び地域での活動の実際から、高齢者の健康の保持、疾病予防に向けた看護の役割・機能を理解する。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
6	1. 高齢者の生活機能をアセスメントする各種スケールを理解できる	1)　高齢者の生活機能アセスメント	(1)　ICF,ヘルス・フィジカルアセスメント (2)　CGA (3)　ADL と IADL 各種アセスメントスケール (4)　転倒と廃用症候群 リロケーション (5)　障害高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準と認知症高齢者の日常生活自立度（寝たきり度）判定基準 (6)　要介護・要支援の認定区分 (7)　フレイル、サルコペニア (8)　高齢者模擬体験	講義 演習 グループワーク
14	2. 高齢者の健康増進に向けた看護が理解できる	1)　高齢者の健康増進 2)　健康増進を支える法律・制度・組織 3)　住まいと社会参加 4)　生活習慣予防 5)　転倒予防 6)　認知症予防	(1) ヘルスプロモーション (2) 健康増進を支える法律・制度・組織 (3)介護予防 (4)高齢者を対象とする健康増進プログラムの要点 (1) 住環境 (2) 住環境のアセスメントと調整 (3)高齢者と社会参加　養父市における生活【面接】 (1)生活習慣病の疫学 (2)栄養と運動 (1) 転倒の疫学 (2) 転倒の要因 (3) 転倒予防の方法、転倒発生時・転倒後の対応 (1) 高齢者のうつ・せん妄の病態と症状 (2) 生活への影響アセスメントと予防、治療と援助	講義 演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ

			(3) 高齢者の認知症の病態と要因、認知機能の評価 (4) 認知症高齢者に対する基本的姿勢（コミュニケーション、尊厳を支える (5) 認知症の周辺症状と生活への影響ｱｾｽﾒﾝﾄ (6) 認知症高齢者の家族支援とサポートシステム	講義 演習 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
8		1) 生活習慣病予防・介護予防プログラム予防の実際	(1) 家族の健康と生活への影響 (2) 養父市の取り組み (3) 地域包括システム (4) 認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン） (5) 集団健康維持・疾病予防計画立案と模擬実施	
2	試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護病態・疾患論　医学書院			
参考文献	国民衛生の動向・厚生の指標　一般財団法人厚生労働統計協会 国民の福祉と介護の動向･厚生の指標　一般財団法人厚生労働統計協会 山田律子 他編　生活機能から見た老年看護過程＋病態･生活機能関連図　第 3 版　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　健康支援と社会保障制度[3]　社会保障・社会福祉　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳・神経　成人看護学７　医学書院			
評価方法	筆記試験 70 点、授業への取り組み及び課題レポート 30 点			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	小児看護援助論Ⅰ 小児の疾病と治療	担当講師	上田雅章　藤林洋美 豊岡病院小児科医師
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい
小児にみられる主な疾病や障害を理解し、看護に必要な知識を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
14	1. 小児特有の疾患の病態と診断・治療が理解できる	1) 染色体異常・体内環境により発症する先天異常の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 常染色体異常、性染色体異常、胎芽病と胎児病	講義
		2) 新生児の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 分娩損傷、適応障害、感染症 低出生体重児の疾患、成熟異常	講義
		3) 代謝系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 先天代謝異常症、糖尿病、アセトン血性嘔吐症	講義
		4) 内分泌系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 下垂体疾患、甲状腺疾患、副甲状腺疾患、副腎疾患、性腺の異常	講義
		5) 免疫系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 食物アレルギー、気管支喘息、原発性免疫不全症、リウマチ性疾患	講義
		6) 感染性の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 麻疹・風疹・水痘・流行性耳下腺炎、百日咳　ほか	講義
		7) 呼吸器系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 上気道の疾患、急性気管支炎、細気管支炎、肺炎	講義
		8) 循環器系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 先天性心疾患（左右短絡群、右左短絡群）、川崎病、後天性心疾患	講義
		9) 消化器系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 口腔疾患、横隔膜の疾患、食道の疾患、胃・十二指腸の疾患、小腸・大腸の疾患、腹膜・腹壁の疾患、肝臓・胆道の疾患	講義
		10) 血液・造血器の疾患の病態と診断・治療の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 貧血・出血性疾患	講義
		11) 悪性新生物の病	おもな疾患の病態と診断・治療	講義

		態と診断・治療	造血器腫瘍、脳腫瘍、その他の固形腫瘍	
		12) 腎・泌尿器系および生殖器系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 先天性腎尿路奇形、糸球体疾患、尿細管間質疾患、慢性腎臓病、急性腎障害、生殖器・外性器の疾患	講義
		13) 神経系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 神経系の先天異常、けいれん性疾患、脳性麻痺、髄膜炎、ギラン-バレー症候群、小児の言語障害（吃音）、筋ジストロフィー、	講義
		14) 運動器系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 先天性股関節脱臼、先天性内反足、骨折	講義
		15) 感覚器系の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 母斑、蕁麻疹、伝染性膿痂疹、睫毛内反、外耳の奇形、アデノイド増殖症	講義
		16) 精神・心身の疾患の病態と診断・治療	おもな疾患の病態と診断・治療 発達障害、チック症、PTSD、食行動障害および摂食障害群	講義
		17) 事故と外傷の診断・治療	おもな事故と外傷の診断・治療 頭部外傷、誤飲、溺水、熱傷	講義
1	2. 試験		筆記試験	

テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学各論　医学書院 山元惠子監修　写真でわかる小児看護技術アドバンス　インターメディカ 高木永子監修　看護過程に沿った対症看護病態生理と看護のポイント第5版　学研ﾒﾃﾞｨｶﾙ秀潤社
参考文献	鴨下・柳澤／監修　子どもの病気の地図帳　講談社
評価方法	出席状況、筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	小児看護援助論Ⅱ 様々な健康課題を持つ児と家族の看護	担当講師	栫井弘美　松本由美 松岡茜　小谷和大
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
小児看護援助論Ⅰでの基礎知識をもとに、さまざまな健康課題を持つ児とその家族へ発達段階や病期に適した看護が実践できる知識・技術を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 病気・障害をもつ子どもと家族の看護について理解できる	1) 病気・障害が子どもと家族に与える影響	(1) 病気・障害に対する子どもの反応 (2) 子どもの病気・障害に対する家族の反応	講義
		2) 子どもの健康問題と看護	(1) 看護の方向性 (2) 治療・健康管理の援助 (3) 日常生活の援助 (4) 家族への看護	講義
2	2. 新生児の看護について理解できる	1) 新生児の看護	(1) 新生児の看護 ① 低出生体重児の看護 ② 新生児仮死がみとめられる子どもの看護 ③ 高ビリルビン血症の新生児の看護	講義
4	3. 症状を示す子どもの看護が理解できる	1) 小児期特有の症状を示す子どもと家族の看護	(1) 子どものアセスメント (2) 特有の症状とその看護 ①不機嫌・啼泣　②痛み ③発熱　④痙攣・意識障害 ⑤消化器症状　⑥脱水	講義
6	4. 検査・処置を受ける子どもの看護が理解できる	1) 治療や処置を受ける子どもと家族の看護	(1) 発達に応じたプレパレーション (2) 小児に看護に必要な看護技術 ①観察　②日常生活の援助　③身体の計測　④固定・抑制　⑤与薬･注射　⑥採血・採尿　⑦腰椎・骨髄穿刺　⑧酸素療法　⑨酸素療法　⑩吸引・吸入　⑪気道の確保	講義 演習
10	5. 子どもの状況（環境）に特徴づけられる看護について理解できる	1) 入院中の子どもと家族の看護	(1) 入院環境と看護の役割 (2) 入院中の子どもと家族の特徴 (3) 入院中の子どもと家族の看護	講義
		2) 外来における子どもと家族の看護	(1) 外来の特徴と看護の役割 (2) 外来の環境 (3) 外来を受診する子どもと家族の特徴 (4) 外来における子どもと家族の看護	講義
		3) さまざまな状況下にある子どもと家族の看護	(1) 災害時の子どもと家族の看護 ① 災害時の子どもと家族の特徴 ② 災害時の子どもと家族の看護 (2) 子どもの虐待と看護 ① 子どもの虐待の現状	講義 講義

			●子ども家庭センター(児童相談所)の役割と児童相談の実際 ② 子どもの虐待とは ③ リスク要因と発生予防・早期発見 ④ 子どもの虐待における特徴的にみられる状況 ⑤ 求められるケア	
4	6. さまざまな健康課題を持つ子どもと家族の看護について理解できる	1) 障害のある子どもと家族の看護 2) 慢性期にある子どもと家族の看護	(1) 障害のとらえ方 (2) 障害のある子どもと家族の特徴 (3) 障害のある子どもと家族への社会的支援 (1) 慢性期の特徴 (2) 慢性状態が子どもに与える影響 (3) 子どもと家族の看護	講義 講義 視聴覚教材
2	7. 試験		筆記試験	
テキスト	系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学各論　医学書院 山元惠子監修　写真でわかる　小児看護技術アドバンス　インターメディカ			
参考文献	鴨下・柳澤／監修　子どもの病気の地図帳　講談社 石黒・浅野編　発達段階からみた　小児看護過程　医学書院 高木永子監修　看護過程に沿った対症看護　病態生理と看護のポイント第5版　学研メディカル集潤社			
評価方法	筆記試験、レポート、出席状況、授業の取り組み			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	母性看護援助論Ⅰ 「周産期の基礎的知識」	担当講師	森本朋子　安達文香 久保井ゆう子 森田利枝　中島雅彦 谷口留充
実施年次	２年次	単位数	１単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
妊娠・分娩・産褥・新生児期における正常な状態と、健康障害を伴う状態を理解する。周産期における看護を学ぶための基礎知識を理解することをねらいとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
8	1. 正常妊娠経過と妊娠期の異常を理解する。	1）正常妊娠の経過	(1) 妊娠に関連する定義 (2) 妊娠の成立と胎児の成長 (3) 妊娠に伴う母体の変化 (4) 妊娠期の生理的変化に伴う不快症状	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		2）妊娠期の異常	(1) 妊娠維持期間の異常 (2) 妊娠に伴う異常 （妊娠悪阻・妊娠性貧血・妊娠高血圧症候群・妊娠糖尿病） (3) 妊娠期の感染症 (4) 羊水量の異常 (5) 胎児機能不全	講義
8	2. 正常分娩経過と分娩期の異常を理解する。	3）正常分娩の経過	(1) 分娩の定義 (2) 分娩の三要素 (3) 分娩の経過と分娩機転 (4) 分娩が母子に及ぼす影響 (5) 産婦と家族の心理・社会的変化	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		4）分娩期の異常	(1) 産道の異常 (2) 娩出力の異常 (3) 胎児及び娩出物の異常 (4) 分娩時の異常出血	講義
6	3. 正常産褥経過と産褥期の異常を理解する。	5）正常産褥経過	(1) 産褥期の定義 (2) 産褥期の全身の変化、生殖器の変化、乳汁分泌のメカニズム (3) 褥婦と家族の心理的・社会的変化	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		6）産褥期の異常	(1) 子宮復古不全 (2) 産褥期の感染症 (3) 乳房・乳頭のトラブル	講義
6	4. 正常新生児の経過と新生児期の異常を理解する。	7）正常新生児経過	(1) 新生児の定義 (2) 新生児の生理的特徴	講義
		8）新生児期の異常	(1) 新生児期における呼吸循環体温の適応不全 (2) 新生児期における代謝の適応不全 (3) 分娩外傷	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野　母性看護学①　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学②　母性看護学各論　医学書院 石村由利子 編　根拠と事故防止から見た母性看護技術　医学書院
評価方法	筆記試験、授業の取り組み状況

授 業 概 要

分野	専門分野	科目名	母性看護援助論Ⅱ 「周産期の看護」	担当講師	森本朋子　安達文香 久保井ゆう子　森田利枝 橋本みどり　谷口留充
実施年次	2年次	単位数	1単位	時間数	30時間

科目設定のねらい
　マタニティサイクル各期における身体的、心理的、社会的側面におけるアセスメントを理解し、各期の順調な経過を促進するための看護を学ぶ。また、妊娠･分娩は自然な事象ではあるが異常な経過をたどる場合もある。本科目では、正常な経過から逸脱した母親と家族の看護についても学ぶことをねらいとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. マタニティサイクルの看護における主要な概念と母子保健施策を理解する。	1) マタニティサイクルの看護と主要概念	(1) 母親になるということ (2) 愛着・母子関係の確立・母子相互作用	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		2) マタニティサイクルにある対象を支える母子保健施策	(1) 母子保健法に関する施策 (2) 子育て支援に関する施策 (3) 災害時の母子支援	
4	2. 順調な妊娠・分娩・産褥経過を促す看護を理解する。	2) 妊婦と胎児のアセスメント	(1) 妊婦健康診査 (2) 妊娠初期・中期・後期のアセスメント	講義
		3) 妊婦の観察に必要な看護技術	(1) 子宮底長測定 (2) レオポルド触診法 (3) 胎児心音聴取法	講義 演習
4		4) 妊婦と家族の看護	(1) 妊娠中の日常生活と看護 (2) 妊娠中の不快症状緩和への看護 (3) 出産・育児準備に向けた看護 (4) 母性発達を促す看護	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2		5) 産婦･胎児のアセスメント	(1) 分娩経過のアセスメント (2) 産婦の基本的ニードに関するアセスメント	講義
2		6) 産婦と家族の看護	(1) 安全分娩への看護 (2) 安楽な分娩への看護 (3) 肯定的な出産体験を促す看護	講義 演習
2		7) 褥婦のアセスメント	(1) 退行性変化・進行性変化アセスメント (2) 母親役割獲得過程アセスメント	講義
4		8) 褥婦と家族の看護	(1) 退行性変化促進への看護 (2) 母乳栄養確立に向けての看護 (3) 母親役割確立に向けての看護	講義 演習
2	3. 胎外生活への適応を整える看護を理解する。	9) 新生児のアセスメント	(1) 胎児期の経過と成熟度の評価 (2) 全身状態のアセスメント (3) 新生児の生活のアセスメント	講義

2		10)胎外生活を整える看護	(1) 呼吸確立に向けた看護 (2) 保温・感染予防・事故防止 (3) 新生児の栄養 (4) 身体の清潔	講義 演習
4	4. 異常をきたした妊産褥婦の看護を理解する。	1) 異常をきたした妊産褥婦への看護	(1) 事例① 切迫早産経過中に破水が生じた妊産婦の看護 (2) 事例② 児に健康上の問題があるときの母親・家族の看護	講義 グループワーク
2	試験			
テキスト	系統看護学講座　専門分野 母性看護学①　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野 母性看護学②　母性看護学各論　医学書院 石村由利子 編　根拠と事故防止からみた　母性看護技術　医学書院			
参考文献	竹内　徹 訳　クラウスケネル　親と子のきずな　医学書院 作田　勉 訳　ジョン・ボウルビイ著　母子関係入門　星和書店			
評価方法	筆記試験　レポート、授業の取り組み			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	精神看護援助論Ⅰ 「精神の疾患と治療」	担当講師	竹内克史　横山紘子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

我が国における入院中の精神障がいを持つ人の平均在院日数は約 270 日と世界で最も長く、地域での生活を促進しているが、依然として精神科病床数は減少せず脱施設化が進んでいない。このような現状の背景には、精神障がいを持つ人に対する社会的な理解不足がある。

疾患や症状について正しい知識を持つことで、精神障がいを持つ人への理解へとつなげ、症状や治療に苦しむ患者の気持ちや思いに少しでも寄り添えるための看護の基礎知識を習得することをねらう。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 精神障害とその治療の歴史的な流れを理解する	(1) 精神医療の歴史と現状	1）精神障がい者の理解のされ方の歴史 2）精神保健福祉活動と法制度の変遷 3）外来・入院患者の現状 4）入院医療の課題	講義
2	2. 精神障がいを持つ人が抱える症状を理解する	(2) 精神症状の種類	1）思考の障害 2）感情の障害 3）意欲の障害 4）知覚の障害 5）意識の障害 6）記憶の障害	講義
8	3. 主な疾患の特徴を理解する	(3) 主な精神疾患の特徴	1）疾患の分類と診断基準 2）統合失調症、統合失調症型障害、妄想性障害 3）気分（感情）障害 4）神経症性障害、ストレス関連障害身体表現性障害 5）生理的障害および身体的要因に関連した行動症候群 6）パーソナリティ障害 7）器質性精神障害（精神作用物質関連障害） 8）知的障害／精神遅滞	講義
2	4. 精神科における治療を理解する	(4) 精神科における主な治療	1）薬物療法、電気けいれん療法 2）精神療法（個人療法・集団療法） 3）作業療法、精神科リハビリテーション	講義
1	筆記試験			

テキスト	系統看護学講座 専門「精神看護学①精神看護の基礎」「精神看護学②精神看護の展開」医学書院
参考文献	中井久夫　看護のための精神医学第 2 版　医学書院 大熊一夫　精神病院を捨てたイタリア　捨てない日本　岩波書店 宮岡等ほか　大人の発達障害ってそういうことだったのか　医学書院 〃　その後
評価方法	筆記試験

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	精神看護援助論Ⅱ 「精神看護 援助技術」	担当講師	阿達勇二･上地あさひ 谷友紀子･田中佳代子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

精神疾患を抱える患者においては、自分の体験や問題点を伝えられない、もしくは伝えたくない場合があり、看護師は患者の外観、表情、反応から推測し・理解し、患者を温かく見守り、患者に心配していることを伝えることができなければならない。そのために看護師は相手を気遣い、また思いやり、そのことを行動に移すというケアリングを基本とする精神看護の知識と技術が必要となる。

精神看護における人間関係論やセルフケア理論からプロセスレコードの基礎への展開を通して、精神看護における基本概念を学ぶ。また、援助論Ⅰで学んだ精神障害に対する基礎知識を活かして、症状に合わせた援助の方法を学ぶことをねらう。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 精神看護の基本姿勢について理解する	1) 看護師に求められる考え方と態度	(1) 精神障害に基づく身体的および精神的苦痛 (2) 精神障害による生活上の困難 (3) 精神看護と倫理的問題 (4) ケアの前提とケアの原則	DVD 学習 グループ討議
4	2. 関係をアセスメントすることの意味と方法を理解する	2) 患者－看護師関係の発展 3) 対人関係的看護理論 4) 自己理解・対象理解の重要性 5) 相互作用を記録し振り返る方法	(1) 傾聴と共感 (2) ペプロウ対人関係理論 (3) トラベルビー人間対人間の関係 (4) オーランド患者－看護師の相互作用論 (5) 治療的コミュニケーションと非治療的コミュニケーション (6) プロセスレコードの活用 －事例を元に看護場面の再構成－	講義 ロールプレイング
6	3. 精神障害を持つ人の回復を促し、支援する方法を理解する	6) 回復・リカバリーの意味 7)回復のためのプログラム	(7) リカバリーとエンパワメント (8) リカバリーと環境 (9) 浦河べてるの家の“非”援助の思想 (10)ソーシャルスキルトレーニング (11) 認知行動療法 (12) 浦河べてるの当事者研究 (13) 元気回復行動プラン(WRAP)	講義
		8) 対象理解のあり方	(1) ライフヒストリーとライフストーリー (2)「人」としての理解と「患者」としての理解	講義 事例演習
8	4. 精神疾患を持つ人の日常生活上の問題と看護が理解できる	9) 精神障害者にとっての入院の意味 10）入院生活環境と患者の権利 11) 治療的環境	(1) 入院のきっかけ (2) 各種入院形態による入院と看護 (3) 精神科病棟の実際 (4) 患者にとっての「安全の基地」としての物的環境・人的環境	講義
		12) 精神症状と看護	(1) 各症状に対する観察と看護のポ	講義

			イント ①思考の障害 ②感情の障害 ③意欲の障害 ④知覚の障害（幻覚） ⑤意識の障害 ⑥記憶の障害 (2) 身体合併症と身体のケア ①フィジカルアセスメントの重要性 ②日常生活における身体のケア 足のケア、皮膚のケア、口腔のケア、排便のケア (3) 睡眠のケア	
		13) 精神科におけるリスクマネジメント	(1) 行動制限と患者の権利 (2) 行動制限における看護 (3)精神科におけるリスクマネジメント ①自殺、自殺企図 ②暴力 ③災害時の精神科病棟の安全確保	講義
4	5. 精神科における治療（社会療法）を理解する	14) 社会療法としての園芸療法の実際	(1) 園芸療法の意義・対象・効果 (2) 園芸療法の実際	講義 演習
4	6. 精神疾患を持つ人の地域生活を支える為の看護の考え方を理解する	15) 地域における生活支援の方法	(1) 地域生活を支えるために援助者が心得ておく原則 (2) 地域生活を支えるシステムと社会資源 ①障害者総合支援法 ②精神障害者保健福祉手帳 ③成年後見制度 ④生活保護法 ⑤障害年金制度 (3) アウトリーチと他職種連携	講義
		16) リカバリーすること	(4) 精神疾患を持ちながら地域で生活している当事者の体験談（ピアサポーター）	講義 当事者による講話 グループ討議
2	筆記試験			

テキスト	系統看護学講座 専門 精神看護学①精神看護の基礎,精神看護学②精神看護の展開　医学書院 舟島なをみ　看護のための人間発達学　医学書院
参考文献	中井久夫　看護のための精神医学第２版　医学書院 宮本眞巳ほか　アディクション看護　医学書院 川野雅資　新看護観察のキーポイントシリーズ精神科Ⅰ・Ⅱ　中央法規

	川野雅資　精神症状のアセスメントとケアプラン　メヂカルフレンド社 川野雅資　エビデンスに基づく精神科看護ケア関連図　中央法規 坂田三允　統合失調症・気分障害をもつ人の生活と看護ケア　中央法規
評価方法	筆記試験、レポート、学習への取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康状態別看護 「健康保持増進の看護」	担当講師	杉垣ひとみ 桐山裕美子 藤井優美子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

健康であることは、全ての国民に与えられた義務であり、個々人の健康生活に向けた支援を行うことが看護師の役割である。看護の対象は、子どもから高齢者まで全ライフサイクルにおいて、そして、病院のみならず、家庭や学校、職場などの生活するあらゆる場の人を対象としている。そのあらゆる人々が健康な生活が送れるために必要な健康支援の基礎理論を学習し、ライフステージと健康課題を捉え必要な支援ができるための方法を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 健康生活に向けた取り組みと保健活動の意義が理解できる	1) 社会の変化と保健に関わる意義・教育	(1) 社会の変化と健康 (2) 健康教育とは	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
6	2. 健康教育に必要な考えかたと理論が理解できる	1) 健康支援の基礎理論	(1) ヘルスビリーフモデル (2) 変化のステージモデル (3) 自己効力理論 (4) 危機理論 (5) ストレス対処方法	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2	3. 健康教育のアプローチの方法が理解できる	1) 健康支援の方法	(1) 集団指導 (2) 個人指導	
8	4. ライフステージと健康課題を捉え、健康を守る法律が理解できる	1) ライフステージと健康課題	(1)乳児・幼児期 (2)学童期・思春期 (3)青年期・壮年期・中年期・向老期 (4)老年期	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		2)ライフステージ各期の健康を守る法律と施策	(1)小児期における健康を守る法律と施策 予防接種法、学校保健安全法 (2)成人期における健康を守る法律と施策 (3)老年期における健康を守る法律と施策	講義
		3)女性のライフステージ各期の健康課題	(1)女性のライフサイクルと健康 (2)ライフステージ各期の健康課題 思春期・成熟期・更年期・老年期	
		4)母子保健施策	(1) 生涯を通じた女性の健康支援と施策	
		5)精神の健康とその活動	(1) 家庭における精神保健活動 (2) 学校における精神保健活動 (3) 職場における精神保健活動 (4) 地域における精神保健活動	
10	5 ライフステージ各期における健康課題と健康支援が理	1) 乳幼児の発達課題と健康課題	(1) 日常生活の世話 (2) 事故防止 (3) 予防接種	講義 演習

	解できる		(4) 生活習慣の改善 (5) 育児支援	
		2) 学童期の発達課題と支援（学校保健）	(1) 学校生活への適応 (2) 心の発達への援助 (3) 食生活 (4) 学習と遊び (5) 生活習慣病、疾病の予防 (6) 安全教育・事故予防 (7) 性教育	
		3) 成人期の発達課題と健康課題	(1) 生活習慣病予防 (2) 職業関連健康問題 (3) ストレスに関する健康問題	
		4) 働く人の発達課題と支援（産業保健）	(1) 就労に関する課題と支援	
		5) 高齢者の発達課題と健康課題	(1) 加齢に伴い顕在化する生活習慣病 (2) 高齢者の自立した生活を阻む要因 (3) 介護者支援 (4) 高齢者のエンド・オブ・ライフ	
		6) 高齢者の生活を守る施策と看護の役割	(1) 高齢者の健康づくりに関する制度・法律 (2) 介護予防	
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護学の基礎　医学書院 舟島なをみ著　看護のための人間発達学　第 4 版　医学書院
参考文献	新体系　看護学全書　ヘルスプロモーション　メヂカルフレンド社 厚生の指標増刊　国民衛生の動向　厚生労働統計協会
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康状態別看護 「健康回復への看護」	担当講師	大海貴子　吉野洋子 安原沙織
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい
　健康レベルを踏まえ、多角的に看護を実践できるための看護の考え方を学ぶ

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1.　患者の心理的特徴が理解できる 2.　病期との特徴と看護の役割が理解できる	1)患者心理の特徴の理解 2)病期の特徴と看護の役割	(1)患者の心理と特徴 （小児、成人、高齢者） (1)　急性期の特徴と看護の役割 (2)　回復期の特徴と看護の役割 (3)　リハビリ期の特徴と看護の役割	講義 講義
4	3.　経過別看護の考え方が理解できる	3)経過別看護 急性期・回復期・リハビリテーション期	(1)　急性期～回復期にある患者の看護 (2)　リハビリ期にある患者の看護 ①リハビリテーション看護の対象 ②リハビリテーション看護の方法	講義 演習
2	4. リエゾン精神看護とその活動について理解できる	4)身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス	(1)　身体疾患をもつ患者のメンタルヘルス (2)　リエゾン精神看護とその活動	講義
6	5. 事例により看護実践の展開を学ぶ	5))事例演習 ・「疾患」「症状」治療・処置」を関連付けて概要をつかむ ・状態のアセスメント ・看護展開	事例１：人工肛門造設患者の看護 生活再構築に向けた援助　　障害受容	講義 演習
1	筆記試験			

テキスト	系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院 系統看護学講座　別巻　リハビリテーション看護　　医学書院 系統看護学講座　別巻　　家族看護学　　医学書院 系統看護学講座　専門分野　消化器　成人看護学⑤　医学書院 系統看護学講座　専門分野　脳神経系　成人看護学⑦　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院
参考文献	
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康状態別看護 「終末期と看護」	担当講師	杉垣ひとみ 小浜真利子 伊澤わかな
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　あらゆる発達段階における対象の終末期看護について学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
4	1. 終末期にある対象の理解ができる	1）終末期とは	(1) 終末期とは (2) 終末期医療における 3 つの概念－ターミナルケア ホスピスケア 緩和ケア	講義 演習
		2)終末期にある対象の理解	(1)　全人的苦痛の理解 －人間にとって死とは 全人的苦痛の概念 死を予期しながら生きる (2)小児おける終末期の特徴 (3)成人期における終末期の特徴 (4)老年期における終末期の特徴	
4	2. 症状緩和とケアについて理解できる。	1)　症状緩和の考え方	(1) 症状緩和の考え方と実践 ① 身体症状の特徴 ② 症状マネジメントモデル	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
		2)　症状マネジメントとケア	(1) 主要な身体症状マネジメントとケア ① がん性疼痛－痛みの定義とｱｾｽﾒﾝﾄ ② 各種症状－定義とｱｾｽﾒﾝﾄ ③ 身体的ケア	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
		3)日常生活を支える援助	(1) 日常生活を支える援助	
6	3. 死の受容過程と精神的ケアが理解できる	1）各発達段階における死の受け止めとケア	(1) 死の受容過程とケア (2)子どもと家族の死の受け止め方とケア (3)成人期における死の受け止め方とケア (4)高齢者の死の受け止め方とケア	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ 演習
2	4. 看取りの看護が理解できる	1)グリーフケア	(1) 大切な人の死に触れることへの悲嘆	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
4		2)成人期にある人の看取り	(1) その人らしく尊厳をもって生きること - 意思決定支援 -	演習
2		3)臨死期のケア	(1)臨終時の看護 (2) 家族ケア (3)臨死期の対応	
4		4)在宅における看取りの看護	(1) 家族の心理と家族のケア参加 (1) 自宅で死を迎えることの意味	

2 2	5. 死亡時の看護が理解できる 試験	1）死亡時の看護	(2) 在宅における看取り (1)死後の処置 (2) 人生の最期に携わる看護者としての姿勢 －看護者の死生観	演習 GW
テキスト	系統看護学講座　別巻　緩和ケア　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　成人看護学総論　成人看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　小児看護学概論　小児看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野Ⅱ　老年看護学　医学書院 任和子編集　根拠と事故防止からみた　基礎・臨床看護技術第 2 版　医学書院 高木永子監修　第 5 版 看護過程に沿った対象看護　病態生理と看護のﾎﾟｲﾝﾄ 学研ﾒﾃﾞｨｶﾙ秀潤社			
参考文献	系統看護学講座　別巻　がん看護学　医学書院 川島みどり編　触れる・癒やす・あいだをつなぐ手　TE-ARTE 学入門　看護の科学社 小澤竹俊著　死を前にした人にあなたは何ができますか？　医学書院			
評価方法	出席時間　　筆記試験　　レポート　　授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康状態別看護 「周術期と看護」	担当講師	小椋　貴文 衣川　真智子
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　周術期は、対象者が手術療法により受けた侵襲から順調に身体回復する過程をサポートする。本科目では、あらゆる成長発達段階にある人が手術療法を受けることによる生活への影響を捉え、術前・術中・術後の看護の重要性と早期回復の促進に向けた援助を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 周術期の看護の概要と看護師の役割が理解できる	1) 手術を受ける患者と家族の特徴 2) 周術期の看護の概要と看護師の役割	(1) 手術決定から退院までの経過の概要 (2) 患者と家族の身体と心理 －身体的変化 －不安・葛藤、自尊心の低下 生命への危機感　等々 (1) 周術期と看護の概要 ・インフォームドコンセント －看護師の役割 ・ 不安・ボディイメージの変化の受容への支援 ・全身状態を整える (2)看護師の役割	講義 演習
2	2. 麻酔と術前・中・後の管理について理解できる	1)麻酔とは 2)全身麻酔と局所麻酔 3)麻酔の合併症	(1)麻酔の目的 (2)麻酔の種類 (3)麻酔の管理 (1)全身麻酔とは (2)局所麻酔とは	講義
2	3. 手術侵襲と生体反応が理解できる	1) 手術侵襲と生体反応	(1)手術侵襲と生体反応	
4	4. 術後合併症について理解できる	1) 術後合併症	(1)術後合併症とその機序 (2)術後合併症予防	
	5. 術前看護について理解できる	1)全身状態の把握と術後合併症のリスクアセスメント 2) 直前の援助 3) 入室時の看護	(1) 身体・心理的情報とその評価 (2) 栄養状態を整える (3) 呼吸・循環を整える (4) 術前訪問－手術室との連携 (1) 手術前日の準備 ① 心理状態と受け入れの状態 ② 家族の支援状況 ③ 身体的準備－絶食・臍処置・下剤投与等々 (2) 手術当日の援助 ① 手術室入室の準備 ② 手術室への引き継ぎ ③ 安全と不安緩和	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ

2	6. 術中の看護が理解できる	1) 安全な手術に向けた環境管理 2) 麻酔導入時の看護 3) 術中の安全管理 4) 手術室から病棟への引継ぎ	(1)手術室の環境管理 (1)麻酔導入時の看護 ① 手術体位とその影響－固定法 ② 麻酔導入の介助 (1) 安全管理－生体反応の把握 術中出血 感染防止 (2) 看護師の役割分担－チームの組み方と各役割 (1)手術室と病棟の継続看護	講義 演習
6	7. 術後の看護が理解できる	1) 外科的侵襲から回復期の生体反応 2) 術後疼痛管理 3) 術後合併症の予防 4) 早期回復促進への援助 5) 術後の生活指導	(1) 手術侵襲に対する生体反応 (2) 看護の展開過程 (1) 創傷治癒過程 (2) 疼痛と主な治療法 (1) 周手術期の全身性の反応 ① 呼吸 ② 循環 ③ 消化器官－腸蠕動 ④ 骨格筋 (2) 術後合併症の予防と発症時の看護 (1) 早期回復に向けた日常生活援助 ① 体位変換・清潔・排泄 ② チューブ類の取り扱い ③ 環境を整える－安眠・時間感覚の取り戻し ④ 食事の開始と進め方 (2) 日常生活再構築に向けた援助	講義 演習
2	8. 特殊な術式と術後看護が理解できる	1)特殊な術式 2)術後看護について	(1) 生命が危機的状況にある患者の特徴 (2) 集中治療における看護の役割 (3) 集中治療における看護の実際	講義
2	9.重症集中治療を受ける患者の看護が理解できる	1) 重症集中治療を受ける患者の看護	(1) 高齢者の身体的変化 (2) 高齢者の生活と QOL (3) 手術前・後の看護 (4) 退院に向けての援助	講義
2	10.高齢者における周術期の看護が理解できる	1)高齢者と手術	(1) 小児の外科的治療 (2) 小児の周術期の看護 (3) 手術前・後の看護 (4) 家族に対する援助・指導	講義

2	11.小児期にある人とその家族における周術期の看護が理解できる	1）手術を受ける小児の看護	(1) 帝王切開の必要条件と適応 (2) 帝王切開術の流れと実施上の留意点 (3) 母体・新生児における合併症 (4) 帝王切開後の術後管理	講義
2	12.帝王切開を受ける産婦の看護について理解できる	1)帝王切開を受ける産婦の看護	(5) 帝王切開術前の看護 (6) 帝王切開術中の看護 (7) 帝王切開術後の看護	講義
2	試験			
テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床外科看護総論　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床外科看護各論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　臨床看護総論　基礎看護学④　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児看護学概論　小児臨床看護総論　小児看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護学の展開　精神看護学②　医学書院 系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院			
参考文献	竹内登美子編　高齢者と成人の周手術期看護１　外来/病棟における術前看護　第 3 版　医歯薬出版株式会社 竹内登美子編　高齢者と成人の周手術期看護２　術中/術後の生体反応と急性期看護　第３版　医歯薬出版株式会社 ナーシンググラフィカ　周術期看護　成人看護学④　　メディカ出版			
評価方法	出席時間　筆記試験　レポート　授業の取り組み状況			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康状態別看護 「薬物療法と看護」	担当講師	小谷　和大
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい
与薬時の看護の基礎知識を学習し、あらゆる年代の対象に合わせた薬物療法時の看護を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
4	1. 薬物療法における看護の基礎知識が理解できる	1)薬物療法と看護の基礎知識	(1) 薬物の体内動態と相互作用の理解 (2) 薬物の剤形とその特徴に応じた教育指導の理解 (3) 薬物の体内動態とハイリスク患者の看護	講義 演習
2	2. 妊婦における薬物自己管理について理解できる	2)対象に応じた自己管理	(1) 妊婦･授乳婦への薬物療法の基本的な考え方 (2) 胎盤・母乳を介した胎児への影響 (3) 妊婦･授乳婦の服薬行動に向けた支援	講義
4	3. 服薬管理への支援が理解できる	3)服薬支援と与薬	(1) 社会復帰に向けた自己管理 (2) 在宅での服薬管理	
		4)薬物療法における看護師の役割理解	(1) 事例を通して薬物療法における看護師の役割を捉える ・パーキンソン病 ・認知症高齢者 ・統合失調症 ・こどもと家族	講義 演習
4	4. 事例を通して薬物管理の援助が理解できる	5）事例に応じた薬物管理①	(1) 事例に応じた薬物管理への援助① 指導計画立案し、ロールプレイ実施	演習
		6)薬物治療における安全管理	(1) 与薬時の事故について	講義 演習
1		筆記試験		

テキスト	系統看護学講座　別巻　臨床薬理学　医学書院 系統看護学講座　専門分野　基礎看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院
参考文献	食見忠弘著　看護学生のための薬理学ワークブック　医学書院 系統看護学講座　専門基礎分野　薬理学　医学書院
評価方法	出席時間、筆記試験、課題・授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	健康状態別看護 「看護展開方法の活用」	担当講師	谷口　留充
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい
　成人看護学、老年看護学、母性看護学、小児看護学、精神看護学における各看護学概論、各援助論で学んだ看護の基本を活用し、看護展開を行う。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
12	1．領域における看護の展開が理解できる	1)　成人・老年看護における看護の展開	1）成人・老年看護における看護展開の考え方 2）事例演習：脳梗塞患者	講義 演習
6		2)　母性看護における看護の展開	1）母性看護における看護展開の考え方 2）事例演習：正常産褥期にある褥婦	講義 演習
6		3)　小児看護における看護の展開	1）小児看護における看護展開の考え方 2）事例演習：気管支喘息患児	講義 演習
6		4)　精神看護における看護の展開	1）精神看護における看護展開の考え方 2）事例演習：統合失調症の患者	講義 演習

テキスト	系統看護学講座　専門分野　基本的看護技術Ⅰ　基礎看護学②　医学書院 秋葉公子他著　看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践　第4版　ヌーベルヒロカワ 系統看護学講座　別巻　臨床検査　医学書院 系統看護学講座　専門分野　成人看護学総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　老年看護学総論　医学書院 系統看護学講座　専門分野　小児臨床看護各論　小児看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　精神看護の展開　精神看護学②　医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学概論　母性看護学①　医学書院 系統看護学講座　専門分野　母性看護学各論　母性看護学②　医学書院
参考文献	山田律子他編　生活機能からみた老年看護過程　第4版　医学書院 佐世正勝他編　ウェルネスからみた母性看護過程　第3版　医学書院 浅野みどり編　発達段階からみた小児看護過程　第3版　医学書院
評価方法	出席時間、演習課題、授業の取り組み状況

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	看護管理と医療安全	担当講師	高階　優子 久保田いづみ
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	30 時間

科目設定のねらい

看護師としては看護実践能力を身につけるだけでなく、よりよい看護を提供していくための看護のしくみがどうなっているか、多くの看護職者や医療・福祉関係者が同時に働くためには組織がどのように機能すればよいのかを知り、組織の一員として一貫した行動をとる必要がある。本科目では人的・物的・財的資源を効果的に活用するしくみとそのマネジメントの基本について学び、チーム医療・看護における看護師としての調整とリーダーシップのあり方を考える基礎とする。

さらに、看護は何より対象者にとっての安全を優先しなければならない。医療現場では看護師が最終的な医療行為者や観察者になることが多く、わずかな見落としや間違いが重大な事故につながることもある。そこで、看護者としてリスク感性を高め、的確な判断力と技術を習得することの重要性と医療安全に関する知識を習得し、事故防止の認識を高めることをねらいとする。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 看護におけるﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの基礎的知識が理解できる	1) 看護とﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	(1) 看護管理学とは ① 定義と概念 ② 基本要素「場、組織、ｻｰﾋﾞｽ」 (2) 看護におけるﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ① ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの考え方の変遷 ② 看護職に求められるﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ③ ﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄﾌﾟﾛｾｽ	講義
4	2. チーム医療・看護におけるﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄの実際を理解できる	1) ｹｱのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	(1) ｹｱのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ① 看護基準と看護手順 ② 患者の権利尊重 ③ 安全管理－事故・感染防止 ④ 情報管理 ⑤ ｹｱ提供ｼｽﾃﾑと看護職の協働 ⑥ 多職種との協働	講義
2		2) 看護ｻｰﾋﾞｽのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	(1) 看護ｻｰﾋﾞｽのﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ ① 組織目標と評価 ② 組織化と協働；人材ﾌﾛｰ ③ 人事労務管理 ④ 看護単位の機能と管理 (2) 情報のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (3) 技術のﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ キャリア開発のｼｽﾃﾑ 安全管理、医療機能評価	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
2	3. ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟとﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄについて理解できる	1)ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟ 2)組織と個人	(1) ﾘｰﾀﾞｰｼｯﾌﾟの定義とｽﾀｲﾙ (2) 組織の調整－組織文化､ｴﾝﾊﾟﾜｰﾒﾝﾄ (3) ｽﾄﾚｽﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ (4) ﾀｲﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄとﾜｰｸﾗｲﾌﾊﾞﾗﾝｽ	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
4	4. 医療安全と看護師の責務について理解できる	1) 医療安全を学ぶ意義	(1) 医療事故の増加とその背景・要因 ① 医療事故とは；事故・過失 ② ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄとｱｸｼﾃﾞﾝﾄ ③ 医療の質の保障 ④ 医療安全に関する法	講義 演習;事例検討

	5. 事故発生のﾒｶﾆｽﾞﾑが理解できる	2) ﾋｭｰﾏﾝｴﾗｰ	(2) 人間の行動とﾋｭｰﾏﾝｴﾗｰ ① 人はなぜ間違いをおかすのか ② エラー発生のﾒｶﾆｽﾞﾑ ③ エラーの個人差	ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
10	6. 事故分析の考え方と具体的な方法が理解できる	3) 事故発生のﾒｶﾆｽﾞﾑと事故の考え方	(1) 事故分析の種類と分析方法 ① ｲﾝｼﾃﾞﾝﾄﾚﾎﾟｰﾄ ② RCA（根本原因分析法）分析法 ③ SHEL ﾓﾃﾞﾙと分析 (2)看護業務の特性と安全努力の責務 ① 医療行為の最終実施者である ② 多重業務、中断と分担 ③ チーム医療	演習；事例検討 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ
		4) 医療・看護事故の構造と防止策	(1) 医療・看護事故の構造と分類 －２種５群の看護事故 事故防止への２つの視点 (2) 事故防止のｽﾃｯﾌﾟ －間違いを防ぐ３ｽﾃｯﾌﾟ 危険の予測･評価で防ぐ２ｽﾃｯﾌﾟ (3) 被害を受けた患者・家族へのｹｱ －直後の障害拡大を防ぐ 直後からのｹｱ (4) 事故を起こした当事者へのｹｱ	講義
4	7. 組織的な医療安全体制について理解できる	1) 組織的な安全管理の考え方	(1) 医療安全対策ｼｽﾃﾑの構築 －ｼｽﾃﾑの改善 安全管理指針 組織体制 (2) 事故報告・ﾋﾔﾘﾊｯﾄ報告書の意義、役立つ分析 (3) 安全文化の醸成 －積極的な取り組み・共有・学び 医療者間・患者及び家族との積極的なｺﾐｭﾆｹｰｼｮﾝ 領域を超えた職員研修 (4) 医療安全管理の実務者の配置 －ﾘｽｸﾏﾈｰｼﾞｬｰ、ｾｰﾌﾃｨﾏﾈｰｼﾞｬｰの役割 専門領域を超えた役割	講義
2	試験			

テキスト	系統看護学講座　看護の統合と実践①「看護管理」医学書院 系統看護学講座　看護の統合と実践②「医療安全」医学書院
参考文献	系統看護学講座　基礎看護学①「看護学概論」医学書院 川村治子「医療安全ワークブック」第３版　医学書院 ナーシング・グラフィカ　医療安全　メディカ出版
評価方法	筆記試験

授　業　概　要

分　野	専門分野	科目名	災害看護と国際協力	担当講師	谷口　留充 中尾　百世
実施年次	2 年次	単位数	1 単位	時間数	15 時間

科目設定のねらい

災害看護とは、災害時だけでなく災害サイクル全てに関わる活動である。本科目では、災害直後から支援できるための基礎的知識・技術、救護チームの一員として冷静に行動できるための基本的な態度を、演習を中心に学ぶ。さらに、看護専門職として普段から防災に対する意識を高める重要性を理解する。

先進国であるわが国は、保健医療分野における国際協力を期待され、これまで多くの活動が展開されている。国際的な医療・看護活動の仕組みや実際、グローバルな視点で健康課題をとらえ看護の役割を学ぶ。

時間	単元目標	主　題	内　容	指導方法
2	1. 災害医療と災害看護の特徴を理解する	1）災害医療の基礎知識	(1) 災害の定義と種類 (2) 災害と健康障害・健康被害 (2) 災害サイクルと各期の医療活動 (3) 災害医療に関わる法制度 (4) 災害時の支援体制と医療制度	講義
		2）災害看護の基礎知識	(1) 災害看護の定義 (2) 災害看護の対象 (3) 災害看護の特徴	
6	3. 災害サイクルに応じた活動を理解する	1）急性期・亜急性期の看護	(1) 被災病院における初動体制・傷病者の受け入れ (2) 救護所の立ち上げと傷病者への対応 (3) 災害と感染制御 (4) トリアージ	講義 演習 講義
		2）慢性期・復興期の看護	(1) 復興期における被災住民への生活支援と看護の役割 (2) 被災者の生活に必要なリハビリテーション (3) 看護職者の災害ボランティア活動	 講義
		3）静穏期の看護	(1) 病院防災としての備え (2) 災害看護教育の取組み (3) 地域防災	
2	4. 国際看護の概要を理解する	1）グローバル化と世界共通の健康目標	(1) グローバリゼーションと国際看護 SDGs (2) プライマリヘルスケアとヘルスプロモーション (3) 人間の安全保障 (4) 健康格差	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ
		2）多様な文化と看護	(1) 異文化理解 (2) 看護の対象 (3) 文化を考慮した看護	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟ ﾜｰｸ

4	5．国際協力活動と看護の対象、展開過程を理解する	1）国際協力のしくみと国際保健の基本理念と看護活動と看護の役割 2）国際救援活動と看護	(1) 国際協力のしくみ、機関、役割 (2) 国際協力活動を必要とする人々、地域、組織 (3) 国際協力活動において看護が果たす役割 (1) 国際緊急援助 政府開発援助　開発協力 (2) 国際救援と看護 (3) 国際看護活動の展開と展開過程 (4) 国際看護活動の課題	講義 ｸﾞﾙｰﾌﾟﾜｰｸ 講義
1	試験			
テキスト	ﾅｰｼﾝｸﾞｸﾞﾗﾌｨｶ　看護の統合と実践③　災害看護　ﾒﾃﾞｨｶ出版 系統看護学講座　基礎看護学[1] 看護学概論 医学書院 系統看護学講座　健康支援と社会保障制度[2] 公衆衛生 医学書院			
参考文献	系統看護学講座　別巻　救急看護学　医学書院			
評価方法	筆記試験　授業取り組み状況及び課題レポート			

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	基礎看護学実習Ⅱ	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	2 年次	単位数	2 単位	時間数	60 時間

科目設定のねらい

基礎看護学実習Ⅰにおいて看護の対象である入院患者と療養環境を知り、看護活動の場と看護の仕事を知った。そして実際に観察技術・生活援助技術を適用し基本的欲求の充足をはかった。対人関係における自己の傾向に気づき、看護とは何かを考えた。2 年生になり学校ではさまざまな疾病と治療、さまざまな発達段階の看護の概念や、援助論を学び、日常生活援助や診療の補助技術を学んだ。本実習ではﾍﾝﾀﾞｰｿﾝのﾆｰﾄﾞ論に基づいて「その人」をとらえ、その人の基本的欲求の充足に向け、ｱｾｽﾒﾝﾄ・看護計画の立案・実施・評価を行う。また、対象者を取り巻く医療・看護ﾁｰﾑの役割を理解し、学生と対象者との関係形成過程を振り返り、よりよい看護とは何か、自己の看護に対する考えを深めることをねらいとする。

時間	単元目標	内　容	実習時期
60	1. 対象者を基本的欲求の状態、常在条件、病理的状態の視点から総合的にとらえ、「その人」を理解することができる	(1) 対象者の基本的欲求を充足する生活行動としての基本的看護の構成要素をとらえる (2) 対象者の基本的欲求に影響を及ぼす病理的状態をとらえ、その原因・誘因を考える (3) 対象者の基本的欲求を左右させる心理・社会的側面(常在条件)をとらえる (4) 対象者の全体像をとらえる	2 年次 11 月頃
	2. 援助の必要性を考え、対象者にあった援助を計画できる。	(1) 対象者の援助の必要性、あるいは看護上の問題点を導き出す (2) 「その人」に合った看護計画を立案する	
	3. 対象者の安全･安楽･自立を考え、基本的欲求を充足させるための生活援助を実施し、評価できる。	(1) 計画に基づいて援助を実施する (2) 実践過程において対象者の安全･安楽･自立を考慮する (3) 援助の過程及び結果を評価する	
	4. 対象者を取り巻く医療・看護ﾁｰﾑの役割について考えることができる	(1) 対象者にどのような人々が関わっているかを説明する (2) 学生の援助過程において看護ﾁｰﾑとの連携の必要性考え、調整する	
	5. 対象者との関係形成過程を振り返り、自己の成長と課題に気づくことができる	(1) 対象者との関係形成過程を説明する (2) 自己のありようが関係形成に影響をもたらしている場面・出来事を振り返る (3) 自己の看護者としての成長、課題を説明する	
評価方法	出席時間、実習要項に準ずる		

授 業 概 要

分　野	専門分野	科目名	看護展開実習	担当講師	杉垣ひとみ 全教員
実施年次	2 年次	単位数	2 単位	時間数	90 時間

科目設定のねらい

成人期は青年期・壮年期・中年期とライフサイクルの中でも最も長い時期で、身体的には成長・成熟・衰退への変化、精神的には各期の発達課題を達成しつつ老年期に向かっている時期である。

多くは家庭や社会の中心としての立場にある成人の健康は、他者や社会に対する関係・できごととの関連が大きい。

成人期の特徴を踏まえ、成人期にある人が健康障害から回復に至る過程の看護について学ぶ。

時間	単元目標	内　容
90	1. 成人期の発達段階の特徴をふまえ、健康の回復・苦痛の軽減に向けた看護が実践できる	1 1) 成人期の特徴をふまえた発達段階・生活の理解 2) 対象者の病理的状態と治療・処置・検査 3) 健康障害の受け止め方と回復への認識 4) 対象者と共に創る看護計画 5) 生活援助を中心とした看護の実践 6) 対象者と共に行う評価
	2. 保健・医療・福祉チームの連携の実際と看護の役割と責任について理解できる	2 1) 病棟における医療チームとの連携・協力 2) チームにおける自己の役割の認識
	3. 対象者に行われている看護に問題意識をもち、看護について考える	3 1) 対象者への看護援助を振り返り、看護について考える 2) 自己の看護者としての成長と課題の自覚
評価方法	出席時間・実習評価は実習要項に準じる	